

SERIGAYA

芹ヶ谷公園"芸術の杜"プロジェクト
パークミュージアム

DESIGN BOOK

芹ヶ谷公園"芸術の杜"プロジェクト

パークミュージアム

DESIGN BOOK

2020年12月発行

発行者：町田市

住所：〒194-8520 町田市森野2-2-22

刊行物番号 20-49



2020年12月
町田市

目次

§ 1_プロジェクトの背景と芹ヶ谷公園の現状

芹ヶ谷公園とは	・・・3
プロジェクトの背景	・・・5
芹ヶ谷公園"芸術の杜"のビジョン	・・・7
芹ヶ谷公園の現状	・・・9
芹ヶ谷公園の価値と資源	・・・15

§ 2_芹ヶ谷公園"芸術の杜"のコンセプト

芹ヶ谷公園"芸術の杜"のコンセプト	・・・19
パークミュージアムのイメージビジュアル	・・・21
パークミュージアムにおける公園活用アイデア	・・・23
市民参加型の公園活用実験プロジェクト 「Made in Serigaya」	・・・27

§ 3_パークミュージアム全体の整備方針

芹ヶ谷公園のゾーニング	・・・33
ステージについて	・・・35
公園空間のあり方について	・・・37
緑の考え方について	・・・39
動線の考え方について	・・・41

§ 4_パークミュージアム全体の整備計画

活動の中心ゾーン「谷のロビー」について	・・・47
「谷のロビー」全体配置図	・・・49
国際版画美術館周辺	・・・51
彫刻噴水周辺	・・・53
多目的広場周辺	・・・55
美術エリアについて	・・・57
美術館と公園の一体的な整備について	・・・59
国際版画美術館と(仮称)国際工芸美術館 の一体的な整備について	・・・61
(仮称)国際工芸美術館の整備について	・・・63
アートステージの整備について	・・・65
タイクンステージの整備について	・・・67
「谷の回廊」全体配置図	・・・69
オオイケステージ&スイケイステージ周辺	・・・71
小田急線線路周辺	・・・73

§ 5_実現にむけたロードマップ

実現に向けたロードマップ	・・・77
--------------	-------

はじめに

芹ヶ谷公園がいかにみんなにとって憩い、楽しみの空間になれるか。
芹ヶ谷公園において、いかに生き生きとした、人々の多様な活動や交流が生まれるか。

芹ヶ谷公園の再整備プロジェクトにおいては、芹ヶ谷公園の持つ価値をより輝かせる
将来のすがたを、多くの市民の方、そして芹ヶ谷公園や町田の未来に思いのある方と
一緒に考えていくためのプロセスを大事にしてきました。

公園の活用アイデアや意見を集めるイベントの開催、町田の未来を考える若者グルー
プや市内学校との連携、子育て世代の方々や近隣の方々、来園者へのアンケートなど、
多くの方から、本当にたくさんアイデアやご意見をいただきました。

そして、市民の皆さんや公園利用者とともに、公園の将来を一緒に考え、活動し、
創造していくための取組みもスタートしました。

この『芹ヶ谷公園"芸術の杜"プロジェクトDESIGN BOOK』は、芹ヶ谷公園
と(仮称)国際工芸美術館の一体的整備により実現する「パークミュージアム」の、
その具体的なすがた(整備計画)をお示しするものです。

町田の多様な文化芸術の活動や豊かな自然を体験しながら、学び楽しむことができる
体験型の公園として、町田ならではの価値やアイデンティティ、そして、市内の多様
な活動や主体との繋がりを大事にしながら、将来にわたり親しみ愛される公園を皆さ
まと一緒につくり、育ててまいります。

§ 1

プロジェクトの背景と芹ヶ谷公園の現状

芹ヶ谷公園は町田駅から北東へ約 700m 徒歩圏内の距離にある、市街地のシンボリックな公園です。芹ヶ谷公園は恩田川へ注ぐ支流の浸食により形成された谷戸の一つで、谷戸地形がそのまま残されて現在に至っています。人の往来が多く交通量の多い町田街道に近い場所にある一方で街の喧騒を感じない静かで落ち着いた空間を形成しているのは、谷戸に立地した本公園の大きな特色です。

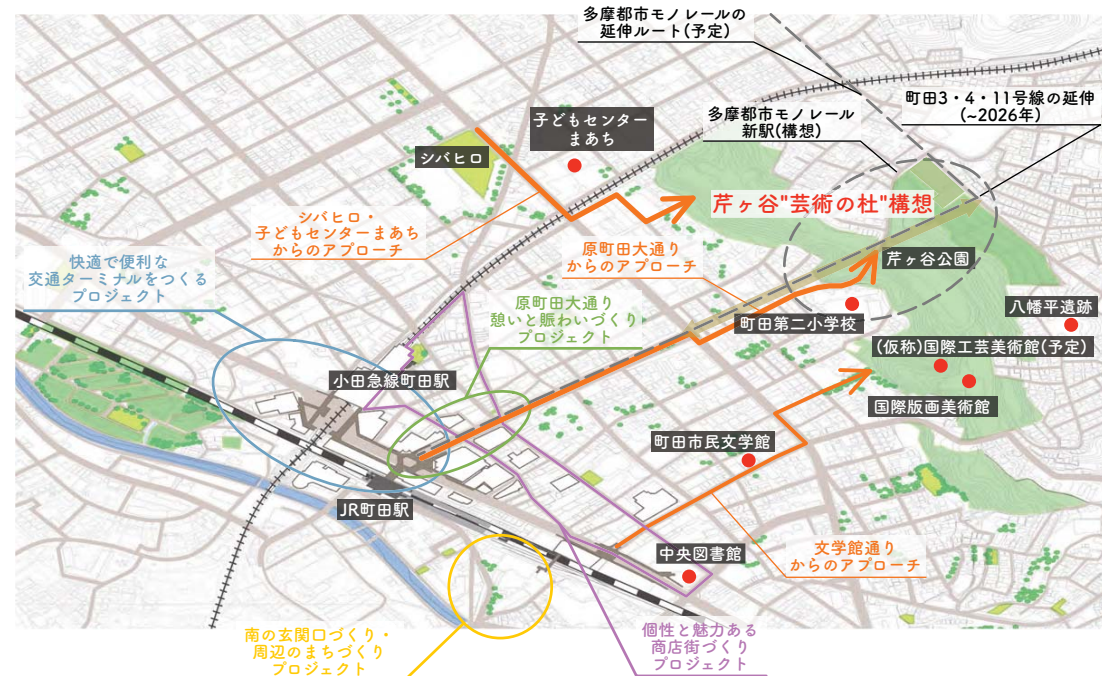
芹ヶ谷公園に隣接する斜面部や台地部は、住宅や学校が建ち並ぶ密度の高い住宅地となっています。市街地の海の中へ浮かぶ緑の島のように、樹林と湧水と一体となった緑と水の織り成す豊かな自然を生かした公園として、散策などを中心に市民の憩いの場となっています。



▶**芹ヶ谷公園と周辺のまちづくりプロジェクトについて**

芹ヶ谷公園の周辺では、「町田市中心市街地まちづくり計画」に掲げる10のプロジェクトをはじめ、さまざまなまちづくりに関するプロジェクトが進行しています。芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトはそれら各種のプロジェクトと連携しながらまち全体の魅力、価値を高めるものです。

また、町田3・4・11号線（原町田大通り）の延伸や多摩都市モノレールの延伸などの大規模な事業も進行しており、町田市中心市街地は、そのエリア全体のポテンシャルが向上する大きな環境変化の時を迎えています。



▶これまでの経緯 -関連する計画等-

- 2011年3月 町田市の博物館等の新たな在り方構想

2014年6月 (仮称)町田市立国際工芸美術館整備基本計画

 - ◆「魅せる」「楽しむ」「支える」まちの賑わいに寄与する
 - ◆基本理念「くらしの中の知恵と美」の探求。ガラスと陶磁器を中心に。
 - ◆芦ヶ谷公園内(国際版画美術館の北側)に整備すること

2016年3月 芦ヶ谷公園再整備基本計画

 - ◆“まちなかで 人と緑が 出会い ふれあう 芸術の杜”
 - ◆重点施策である町田駅周辺のまちづくりにおいて、芦ヶ谷公園の魅力を一層向上させることで新たな賑わいを創出

2016年7月 町田市市中心市街地まちづくり計画

 - ◆“夢”かなうまちへ 10のプロジェクト「町田発アート・カルチャーを楽しむプロジェクト」

「周辺資源をみがきまちの魅力として活かすプロジェクト」

2020年3月 芦ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクト パークミュージアム CONCEPT BOOK

▶プロジェクトの背景

全国的に高齢化や少子化が進み、多くの自治体が人口減少に直面しています。町田市においても、既に生産年齢人口は減り始めており、今後の町田市の発展にとって特に若年層・子育て世代に選ばれるということは非常に重要です。これから町田市が選ばれ、愛着を持って住み続けていただけるまちであるためには、子育て世代を支える制度や取組の充実だけに留まらず、さまざまな体験を通して子どもたちが地域と共に学び、楽しみ、成長することができる豊かな環境を作り出すことが重要だと考えています。

また、多摩都市モノレールの延伸事業という町田市のポテンシャル向上につながる大きな変化も始まっています。そこで、この変化の機を捉え、町田駅周辺の貴重な資源のひとつである「芹ヶ谷公園」のさらなる魅力向上を図ることで、新たな賑わいや交流、経済的な価値だけでは測れない潤いや豊かさを生み出し、町田市全体のブランド価値の向上を目指します。

▶芹ヶ谷公園"芸術の杜"

芹ヶ谷公園は、町田駅から徒歩10分程度で訪れることができる自然豊かな公園であり、多くの市民の憩いの空間です。また、芹ヶ谷公園には、全国的にも珍しい版画を専門とした国際版画美術館がある他、自然あふれる空間に彫刻噴水・ソーラー等の美術作品も点在しています。現在は、「町田さくらまつり」や「町田時代祭り」「ゆうゆう版画美術館まつり」などのイベントに市内外から多くの来街者が訪れ、多様な文化芸術を感じることができます。さらに、本町田にある町田市立博物館の老朽化に伴い、芹ヶ谷公園内に(仮称)国際工芸美術館も整備されます。

2016年3月に策定した「芹ヶ谷公園再整備基本計画」では、再整備テーマを「まちなかで人と緑が会いふれあう芸術の杜」と定め、魅力あるまちづくりの一環として、芹ヶ谷公園の整備に取り組んでいるところです。

▶(仮称)国際工芸美術館の整備

施設の老朽化によって町田市立博物館は2019年6月に展示事業を終了しました。その収蔵品を引き継ぐ施設として、芹ヶ谷公園に新たに整備する(仮称)国際工芸美術館は、博物館が所蔵している美術品のうち、国内でも秀でた貴重なコレクションとして特に高い評価を受けている「ガラス」と「陶磁器」に絞った美術館とします。

テーマを「ガラス」と「陶磁器」に絞ることにより、全国的にも貴重な特徴ある美術館となります。その一方で、新しい美術館は特定の層だけの関心や興味を満たすものではなく、親しみやすさや楽しさをキーワードに、多くの人に新たなアートとの出会いやふれあいを提供する場とすべきだと考えています。

▶公園と美術館の一体的な整備

芹ヶ谷公園の第二期整備と(仮称)国際工芸美術館の整備にあたっては、公園と美術館をそれぞれ単体として捉えるのではなく、「芸術の杜」という大きなテーマの中で公園と美術館の一体的な整備を行うことで、公園という市民に開かれた身近な空間が多様なアートに親しむ入り口となることを目指します。

例えば、美術館での美術品の鑑賞に留まらず、芹ヶ谷公園の空間と一体となった参加型のアートプログラムなどが公園の様々な場所で展開されるなど、芹ヶ谷公園の豊かな自然を感じながら多様なアート活動に五感を通じて触れられる体験を提供することで"ここならではの"価値の創出を目指します。

▶ひらかれたプロセスと持続可能性の実現にむけて

これらの新しい公園のあり方を考えるにあたっては、多くの方々の意見を聞き町田市としての考えや思いを丁寧に伝えていくことはもちろんですが、同時に芹ヶ谷公園の将来やあり方を自分事として捉え、一緒に考え、共に創造していく人たちの増やしていくことが重要だと考えています。多様な立場や様々な視点からの声を取り入れていくことで、より多くの人にとって魅力的な芹ヶ谷公園をつくりだすことを目指します。

また、さらなる高齢化や少子化など、これまでと異なる社会状況においても、芹ヶ谷公園が継続的に発展していくためには、町田市と共働して事業推進していくことができる先進性と実現性を持ったパートナーを見つけていくことも重要と考えます。それにあたっての事業形態の検討を進めるとともに、民間事業者へのヒアリングなどにも取り組んでいきます。

▶ 芹ヶ谷公園"芸術の杜"のビジョン

地域の人にとっての憩いの公園であり、市内外から多くの人が訪れる町田市の顔のひとつとなるような"わざわざ訪れたくなる"、"何度でも訪れたくなる"多彩な魅力に溢れている、町田を訪れる目的となりえる場。

芹ヶ谷公園は既に多くの市民に愛され親しまれている公園ですが、まだまだその価値や可能性をこれまで以上に大きく広げられる場所であり、これからの町田市にとって重要な場所のひとつです。そこで文化芸術という視点から公園の魅力向上に取り組んでいくことで、経済的な活動だけでは出会うことのない新たな出会いや交流を生み出し、文化芸術の持つ多様な活動を受け止められる懐の深さや町田の人々の暮らしや営みの中にある豊かさを体现できる"ここならではの"場所としていきます。そのために、多くの方々と共に今ある資源を磨き活かしながら文化芸術に対する機運を高めていくことで、"芸術の杜"としての芹ヶ谷公園の価値や意義を高めていくことができると考えています。

緑あふれる公園に、アートという多様かつ魅力的な人々をつなぐ力のある要素が加わることで、これまで以上に芹ヶ谷公園という場が、新たな町田のイメージのひとつをつくるような魅力ある場所となることを目指します。

町田らしい多様なアート・カルチャーを体现する魅力的な企画やイベントが、緑あふれる公園の空間や公園内施設、まちなかと一体となって展開されている。

(仮称)国際工芸美術館や国際版画美術館をはじめとする公園内の施設も含めて公園全体が芸術体験のフィールドとなり、市民の活動の拠点となっていくことを目指します。そのために地域性豊かでかつ多様性に富んだ文化プログラムを、市民の方をはじめとした多様な主体と共に展開していきます。この公園全体で展開される様々な体験やプログラムがまちなかへと繋がっていくことで、中心市街地全体に新しい出会いや交流を創出していきます。

また、中心市街地のまちづくりという視点から市民文学館や市立中央図書館、シバヒロ、商店街や駅前大型店舗などのまちなかの施設との連携を図ることはもちろん、例えば公園を含めた中心市街地全体をエリアとした参加型・回遊型のイベントなどを通じた、駅前から芹ヶ谷公園まで歩きたくなるようなまちづくり、空間づくりに取り組みます。

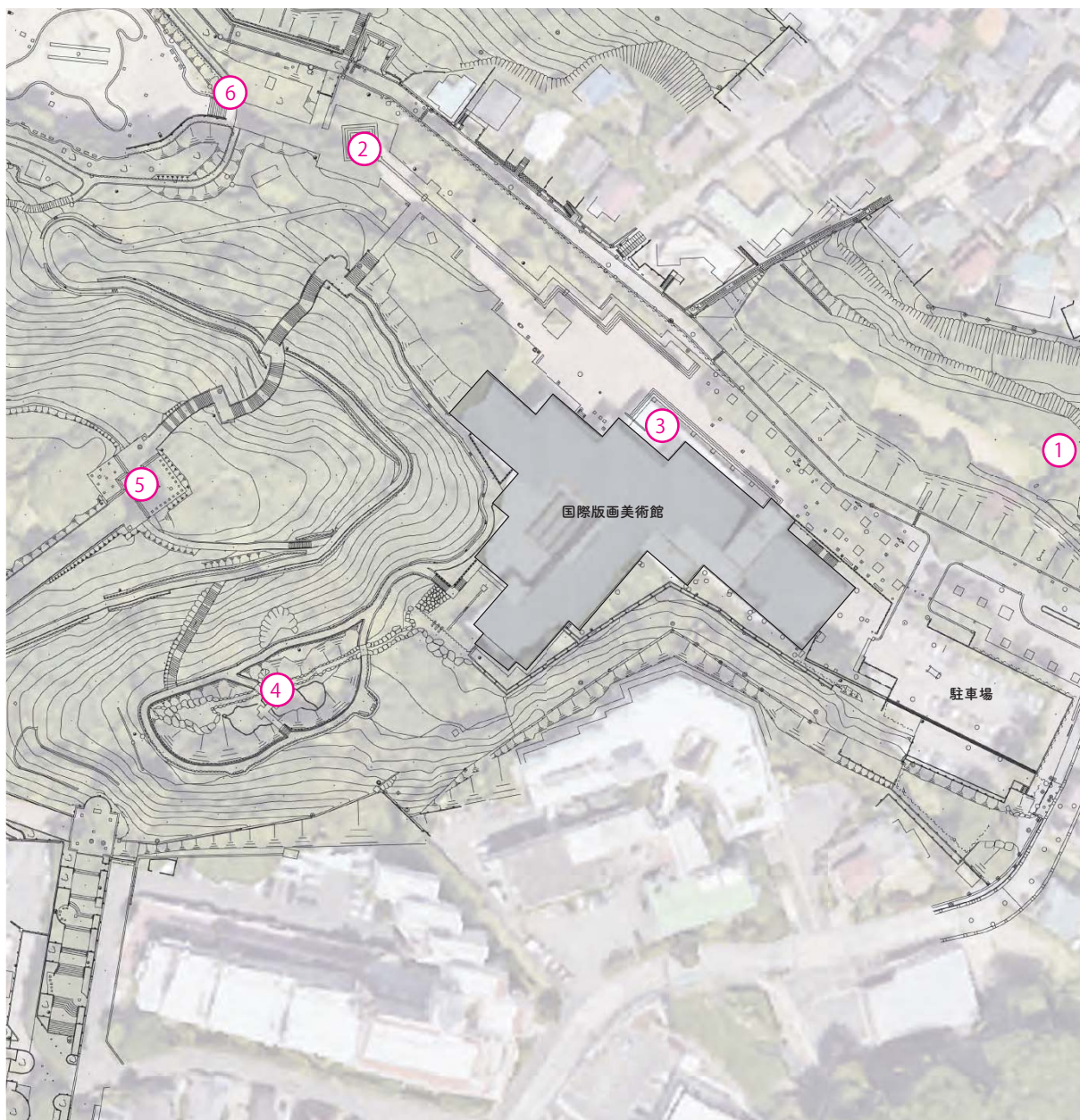
まちなかと公園が一体となり賑わいを創出していくことで、より多くの来街者が訪れるまちづくりを進めていきたいと考えています。

行政だけでなく多様な主体の参画による高付加価値化、広がりが生まれている。

公園という場所は多様な活動のプラットフォームとなりえる空間です。そこで、芹ヶ谷公園という公共空間における新しい空間づくり、仕組みづくり、そして中心市街地のまちづくりを進める上で、"子どもと体験"という視点や、"新たな価値や賑わいを生み町田市の魅力を市内外に発信する"という視点、さらに"芹ヶ谷公園と中心市街地とのつながり"という視点など、広く多角的な視点を持ちながら芹ヶ谷公園の魅力を向上させていくことを検討していきます。

また、多様な主体、多様な方々が活躍できる場という共生社会の実現という視点、より多くの方に芹ヶ谷公園に訪れていただき楽しんでいただくという視点から、民間との連携を念頭に芹ヶ谷公園の魅力発信や多様なコンテンツの導入や魅力あるプログラムの企画、そして公園そのものをはじめ、(仮称)国際工芸美術館やその他各施設の運営・維持管理等も含めて、芹ヶ谷公園全体のサービスの質を向上させるようなマネジメントのあり方についても検討を進めていきます。

▶国際版画美術館周辺



①町田荘跡地

樹木に囲われ広々とした平地で公園の賑わいからも隔離されており、新しい公園活用の取り組みを行うことができるポテンシャルがあります。一方で、出入口の整備や国際版画美術館との繋がりなど一体的な活用においては課題があります。



②せせらぎ周辺

水が流れる“せせらぎ”の周囲には、夏場になると多くの子どもたちが集まります。老朽化した舗装の修繕や憩いのための設備を整備することで、より快適な水辺空間が生まれると考えられます。



③国際版画美術館

芹ヶ谷公園の顔とも言える国際版画美術館。市民に愛されていますが、開館から30年以上が経ち施設の経年劣化なども見られます。



④もみじ園

窪地で独特の囲われ感があり、水と緑にも恵まれた環境ですが、現在は成長した樹木で鬱蒼としており、高低差などもありアクセスもしづらい状況となっています。



⑤中央口へのアプローチ

町田駅方面からの重要な動線のひとつで、シンボルとなる彫刻もあります。しかしサインの不足等もあり園路がわかりづらく、初めて訪れる人にとっては分かりづらい空間となっています。



⑥彫刻噴水・シーソーへのアプローチ

国際版画美術館から彫刻噴水・シーソーへ向かうアプローチは芹ヶ谷公園の“ヘソ”として多くの人が通る場所ですが、高低差があるため階段があり通路幅も狭まるため、視認性が低く公園の一体感が薄くなってしまっています。



▶多目的広場～グラウンド



⑦第1期整備区域

芹ヶ谷公園再整備の第1期整備区域として、芹ヶ谷公園グラウンドと芝生広場が2020年春にオープンしました。今後、芹ヶ谷公園の他エリアとの回遊性や一体感の形成が必要となってきます。



⑧彫刻噴水・シーソー

芹ヶ谷公園のシンボルである彫刻噴水・シーソーは、特に夏場に多くの家族連れが訪れ水遊びを楽しむ人気スポットです。この場所をより楽しむためのしつらえが求められています。



⑨多目的広場

スポーツをしたり様々なイベントで利用され、春は桜の名所としても賑わいます。周囲からの視認性やアクセスを向上させることで、よりこの場のポテンシャルが発揮されると考えられます。



⑩多目的広場横の2つの谷

多目的広場に寄り添う2つの大きな谷は、現在特に利用されている場所ではありませんが、豊かな自然や独特の地形を楽しめる活動の場となるようなポテンシャルを持っています。



⑪せりがや冒険遊び場

せりがや冒険遊び場は子ども達の人気スポットです。周囲の動線計画の再構築や回遊性を高めていくことで、魅力をさらに高めていくことができると考えられます。

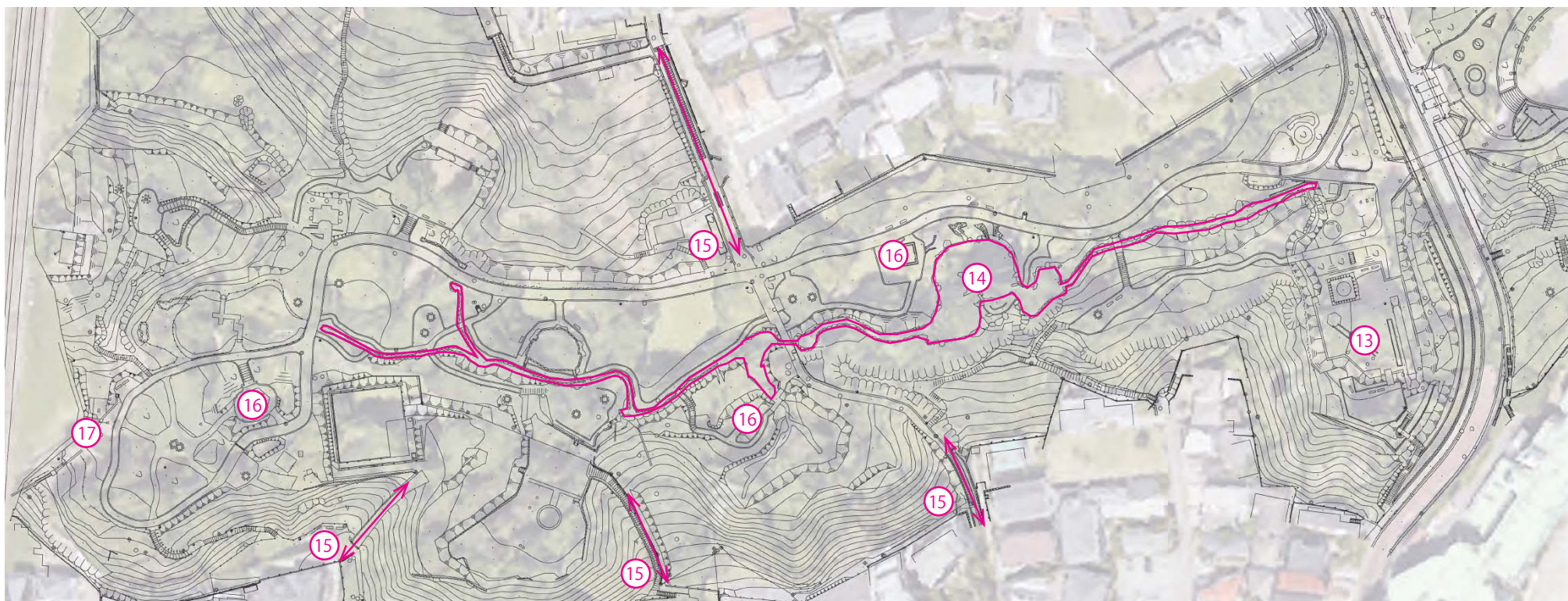


⑫アーチの泉周辺

芹ヶ谷公園内を道路をまたいでつなぐトンネルの出入り口であり、また道路から公園への重要な出入口の1つでもある場所です。しかし現状では道路から公園の内部の様子が見えづらく、入り口自体も分かりづらい状況です。



▶冒険広場～カキツバタ園



⑬冒険広場

様々な遊具のある冒険広場は、子ども達に人気の場所ですが、老朽化によって一部修繕が必要な遊具もあります。また、名称もせりがや冒険遊び場と混同しやすく認知されていないのが課題です。



⑭大池と湧き水周辺

湧き水は公園の大きな魅力ですが、現在湧き水を眺めながら散歩ができるような歩道等の回遊動線の整備が十分ではありません。湧き水という資源を活かしたこの場のポテンシャルが発揮されるような整備が必要です。



⑮周辺の町からの出入り口

特にこの空間一帯には小さな入口が多くあり、様々な場所からアプローチできる特徴があります。しかしいずれも場所がわかりづらく、サインや統一感のある設えもないため日常的に出入り口を利用する人にしか認知されていないのが課題です。



⑯あずまや

特に湧き水の周囲を中心として園内にはいくつかの“あずまや”があるのも特徴となっています。しかしいずれも老朽化しており、屋根下空間の構成として利用人数や利用形態が限られてしまっており使い勝手が良いとはいえないのが現状です。



⑰小田急線 線路沿い

電車の鑑賞スポットとして子どもたちにも人気のスポットです。現状は大きな芹ヶ谷公園の看板が立ち、電車に見せる事に特化していますが、公園と電車との双方の見え方を考えることで場所のポテンシャルを活かすことができます。



芹ヶ谷公園の価値と資源

芹ヶ谷公園には、ここならではの価値と資源が存在します。

この価値を最大化させるような空間づくりがこれから進める整備の重要なポイントになります。

地形

芹ヶ谷公園は恩田川へ注ぐ支流の浸食により形成された谷戸地形がそのまま残された公園です。谷底の空間は台地面より約20m低く、斜面を覆う緑によって公園の内部からは住宅マンション、学校などの周辺建築物が見えない状態がつけられ、良好な状態で内部の景観を保っています。



谷戸地形が残る場所であること

- ・他の公園では見られない、芹ヶ谷公園ならではの地形の価値
- ・谷戸地形がつくる独特の囲われ感
- ・町田駅から徒歩圏内でありながら、喧騒を感じさせない空間

自然

多摩丘陵の谷戸地形を有する芹ヶ谷公園内では斜面地にコナラクヌギ群集、ムクノキミズギ群落からなる落葉広葉樹林やシラカシ群集の常緑樹林などが分布しています。水路や湧水では湿生の植物も見られ、多様な植生が広がり、豊かな環境の中に様々な鳥類や昆虫類をはじめとした動物も生息するなど、中心市街地周辺にしながら身近に自然を感じることができます。



谷がつくる緑や水の風景

- ・谷戸地形ならではの自然の風景
- ・斜面地に広がる緑のレイヤー
- ・園内各所で湧き出る湧水

憩いと賑わい

芹ヶ谷公園は豊かな自然を活かした公園として、散策などを中心に市民の憩いの場となっています。国際版画美術館をはじめとし、園内には芸術作品が展示され、アートを楽しむ場としても市民に親しまれています。園内の多目的広場では年間を通じてイベントが開催され、市内外から多くの来園者が訪れるなど賑わいある空間が形成されています。



谷底が人の集まる場となっていること

- ・国際版画美術館や彫刻噴水、芸術作品など、谷底の空間に集まっている芸術要素
- ・既に多くの人々の活動の場として機能し、賑わいを生み出している広場空間
- ・散策などが楽しめる憩い空間